

立命館大学北海道校友会 第2回 定例講演会



日時：2026年5月23日（土） 15:00～17:00

会場：ACU 1613会議室

（札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45）



プログラム

15:00 講演Ⅰ

「立命館を創った人々

～ 学祖 西園寺公望、創立者 中川小十郎、

そして京都帝大初代学長 木下廣次の人物相関図から ～」

学校法人立命館総務部次長・学術情報部次長

兼史資料センターオフィス課長 大場 茂生 様



16:10 講演Ⅱ

「学生が挑む社会課題解決

～ 琵琶湖の外来生物に向き合う、学生団体「**biwa友**」～」

立命館大学経営学部 藤井 彩恵 様



講演概要集

立命館を創った人々

～学祖 西園寺公望、創立者 中川小十郎、
そして京都帝大初代学長 木下廣次の人物相関図から～

学校法人立命館総務部次長・学術情報部次長
兼史資料センターオフィス課長 大場 茂生

自己紹介①

1989年3月	立命館大学卒業（1998年3月まで小野薬品）
1998年4月	学校法人立命館入職
2010年4月	社会連携課長
2011年4月	広報課長
2014年4月	校友・父母課長（校友会事務局長）
2017年4月	衣笠キャンパス地域連携課長
2023年1月	総務部次長
2025年4月	学術情報部次長と史資料センターオフィス課長も兼務、現在に至る

自己紹介②

1995年	体育会準硬式野球部監督就任
1997年	全日本大学準硬式野球選手権ベスト8 (2000年はベスト16で敗退、2002年、2003年は初戦敗退)
2004年	全日本大学準硬式野球選手権準優勝
2006年	全日本大学準硬式野球選手権ベスト8、監督勇退
2023年	まさかの監督復帰
2024年	清瀬杯全日本大学準硬式野球大会優勝
2025年	全日本大学準硬式野球選手権9年ぶり出場

座右の銘「義を見てせざるは勇無きなり」

Agenda

- 立命館創始155年・学園創立125周年記念事業「学園史プロジェクト」の紹介
- 伝えたい学祖西園寺公望の人物像
- 伝えたい創立者中川小十郎の人物像
- ステークホルダー間で共有したい立命館のDNA

立命館創始155年・学園創立125周年記念事業 「学園史プロジェクト」



立命館創始155年・学園創立125周年記念シンポジウム
「強い国にならなくてもいい、尊敬される国 日本になるべき—西園寺公望がみた未来—」



「西園寺公望の思想と立命館展」

開催趣旨

- ①学祖西園寺公望の思想・哲学・取り組みを知っていただく機会の創出
- ②学祖西園寺公望の思想・哲学を体現した人々中の一人が創立者中川小十郎であることを確信していただく機会の創出
- ③立命館のOriginといえる学祖西園寺公望の思想・哲学・取り組みを知ることとでステークホルダーが誇りを持てるような機会の創出



伝えたい西園寺公望の人物像

- ◆幕末期の西園寺公望
- ◆明治維新期の西園寺公望
- ◆私塾「立命館」の開塾と閉塾
- ◆フランス留学期の西園寺公望
- ◆政治家 西園寺公望
 - 文部大臣
 - 立憲政友会総裁
 - 内閣総理大臣
- ◆元老 西園寺公望



幕末期の西園寺公望

- 1849年 右大臣徳大寺公純の次男として誕生
- 1851年 西園寺師季の養子となり、養父師季の逝去にともない西園寺家の当主となる
- 1867年 岩倉具視の推挙を受けて参与に就任
- 1868年 鳥羽伏見の戦い勃発

公家の家格

家格	家名
摂関家（五摂家）	近衛、九条、一条、二条、鷹司
清華家	今出川（菊亭）、大炊御門、花山院、久我、 西園寺 、三条、醍醐、徳大寺、広幡
大臣家	正親町三条（嵯峨）、三条西、中院
羽林家	飛鳥井、姉小路、阿野、油小路、綾小路、石山、今城、入江、岩倉、石野、植松、梅園、梅深、裏辻、正親町、大原、大宮、小倉、押小路、愛宕、風早、河鱈、柳筈、久世、桜井、滋野井、四条、七条、清水谷、持明院、園、園池、高丘、高倉（藪）、高野、高松、千種、中園、中山、難波、西大路、西四辻、庭田、野宮、橋本、八条、花園、東久世、東園、樋口、藤谷、堀河、町尻、松木、水無瀬、壬生、山科、山井、山本、四辻、上冷泉、下冷泉、六条、六角、鷲尾、武者小路
名家	池尻、梅小路、裏松、岡崎、交野、勘解由小路、勤修寺、烏丸、甘露寺、北小路、芝山、清閑寺、竹屋、堤、外山、豊岡、中御門、長谷、葉室、日野、日野西、平松、広橋、坊城、穂波、万里小路、三室戸、柳原
半家	五辻、石井、唐橋、北小路、清岡、倉橋、桑原、五条、澤、慈光寺、白川、高倉、高辻、竹内、土御門、富小路、錦小路、西洞院、錦織、荻原、東坊城、藤井、藤波、伏原、舟橋、吉田

明治維新期の西園寺公望

（芸州藩士の参与 辻将曹）
「これは薩摩藩と旧幕府勢力の私闘であり、朝廷は中立を保つべきである」

（西園寺公望）
「この戦いを以て私闘とするが如きあらば、天下の大事去る」

岩倉具視の評価を得て、山陰道鎮撫総督、北國鎮撫使、会津征討越後口参謀を担う



私塾「立命館」の開塾と閉塾

1869年9月 西園寺邸において

私塾「立命館」開塾

「妖壽貳わず、身を修めて以て之を俟つは命を立つる所以なり」（「孟子」の尽心章第一節）

1870年4月 フランス留学の準備のために

長崎滞留中京都留守官により、

私塾「立命館」が閉塾措置を受ける



フランス留学期の西園寺公望公

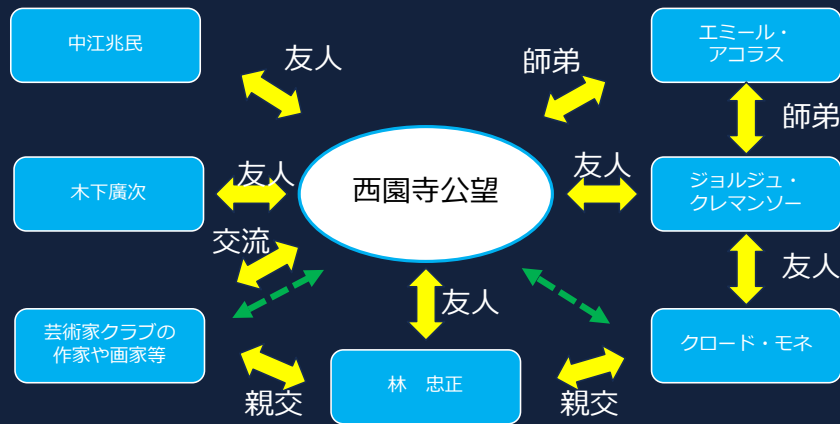
1871年2月 パリに到着

1871年3月 パリ・コミューンに遭遇

「フランスのような近代国家であっても、国民の隅々にまで教育が行き渡っていないと、賊に扇動された大衆が暴動を起こすようなことになってしまう」と教育の重要性を体感

巴里遊學時代の公

フランスでの人脈



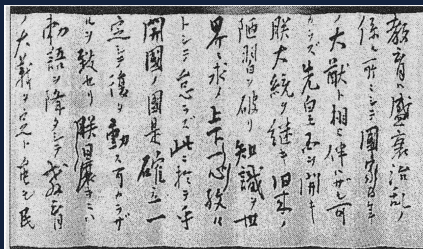
政治家 西園寺公望

- 1880年 フランスから帰国
- 1883年 伊藤博文を団長とする憲法調査団の一員として渡欧
→伊藤と親交を深める
- 1894年 第二次伊藤内閣で文部大臣就任
- 1896年 外相も兼務
- 1900年 立憲政友会創設に参加（初代総裁は伊藤博文）
- 1903年 立憲政友会総裁就任
- 1906年 第一次西園寺内閣（国際協調外交展開・軍拡抑制）
- 1911年 第二次西園寺内閣（陸軍の師団増設要求を拒否）
- 1913年 立憲政友会総裁を辞任。原敬が第三代総裁就任
- 1916年 元老の一員となる



西園寺文部大臣の教育政策

日清戦争に勝利したことで、徒に日本の優位性を誇る世間の風潮を批判し、着実に近代国家建設を進めていくため、教育の重要性を訴える。とりわけ、科学教育、英語教育、そして女子教育の重要性を訴えた。



1890年に発布された教育勸語の内容を補完する目的で作成された「第二教育勸語」草稿
上記教育思想が反映された内容となっている
（出典）「立命館百年史 通史1」

西園寺文部大臣の教育政策

第一次伊藤内閣では、日本の近代化を支える専門性を有した優れた国家官僚を育成すべく、1886年に東京大学が東京帝国大学へと改組された。そして第二次伊藤内閣では、第二の帝国大学が創立されることとなった。

西園寺文部大臣は、かつて戊辰戦争山陰道鎮撫総督時代に従軍に応じた丹波馬路村（現在の亀岡市）の郷土中川家の子息中川小十郎が、東京帝国大学を卒業後文部官僚になっていたことを受け、中川を秘書官として抜擢し、プロジェクト推進役に任命した。併せてフランス留学時代の同志であり、中川の恩師でもある木下にもプロジェクトへの参画を命じ、京都に第二の帝国大学を創立する準備が進められていった。

そして、1897年、ついに京都帝国大学が創立される。

西園寺文部大臣の教育政策

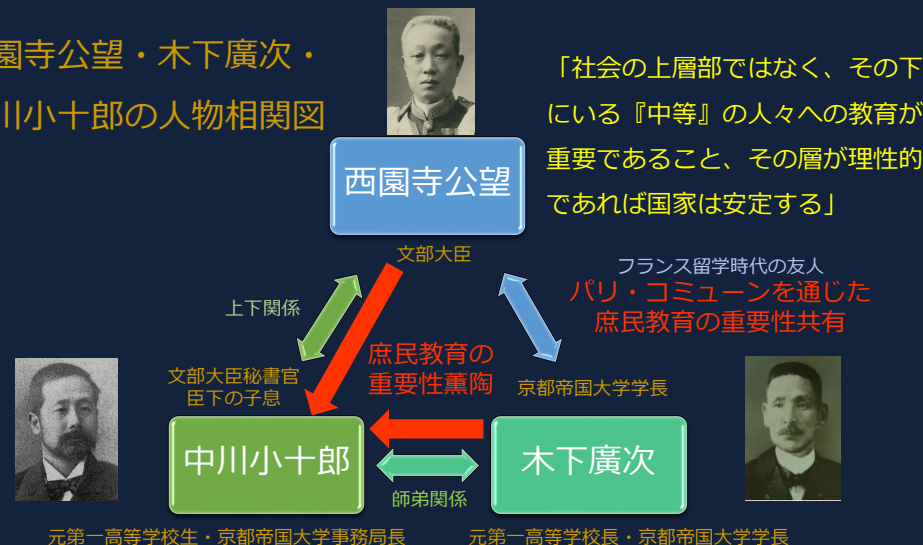
庶民教育の重要性を踏まえた京都法政学校の創立支援

京都帝国大学の創立は、西日本の高等教育の拠点として機能するとともに、明治になり首都機能が東京に移転してしまい衰退の一途を辿っていた京都の復興に向けたエンジンとして機能することが期待できた。

しかし、中川にとって西園寺と恩師木下から薫陶を受けていた「庶民教育」の普及という点では課題が残った。何故ならば、京都帝国大学は庶民にとっては狭き門であり、小学校を出て働いている人たちが学ぶ対象の教育機関とはなりにくかったからである。

中川は、小学校と京都帝国大学との間を補完するような中高等教育機関の必要性を強く感じ、1900年、立命館大学の前身となる私立京都法政学校を創立した。

西園寺公望・木下廣次・ 中川小十郎の人物相関図



西園寺文部大臣の教育政策

庶民教育の重要性を踏まえた京都法政学校の創立支援

1905年、中川は西園寺公に対し「立命館」の名称継承を申し出て許諾を得る。「立命館」が名実ともに復活することを喜んだ西園寺公は、その思いを綴った扁額を贈るとともに、実業界に身を置きながら学園運営を担う多忙な中川を補佐する人材として、実弟の末弘威磨を会計庶務幹事として送り込む。また、同じく実弟の住友吉左衛門を通じて財政支援を行うなど、草創期の立命館を支えた。このように物心両面にわたり立命館を支え続けた西園寺に感謝し、1940年の西園寺公逝去に際し、立命館は全理事、全教職員の総意として西園寺公を立命館の「学祖」とする旨決議し、今日に至っている（出典 立命館百年史 通史1）。

立憲政友会総裁

西園寺公望の政治方針は

「立憲君主制」「政党政治」「議会制民主主義」

1900年 伊藤博文とともに結党に参加

1903年 伊藤の後継者として第二代総裁に就任
総裁在任中二度にわたり内閣総理大臣を務める

1914年 総裁退任、原敬が第三代総裁に就任

内閣総理大臣

1906年1月7日～1908年7月14日 第一次西園寺内閣



西園寺公望の外交方針

「外交においては一方には同盟与国の交誼を益親厚ならしむることを謀り、一方には帝国と利害を異にする国際間の連合を極力防止する」

⇒日露戦争後も継続していた南満州の軍政を廃止、日英同盟の継続、日仏協約の締結、日露協約の締結、アメリカにおける移民排斥運動の収束を図るなど国際協調外交を展開

「朕力親愛スル所ノ臣民ヲシテ文明列国ノ間ニ伍シ列国ノ臣民力欣仰愛慕スルノ国民タラシメント欲スルニ外ナラス」(第二教育勅語草案から抜粋)

⇒「強い国にならなくてもいい、尊敬される国になるべき」

まったくの私見ではあるが、フランス留学時代のジャポニズムの影響から文化レベルの高さが認められれば、尊敬される国になれるという感覚をもったのではないか

内閣総理大臣

1911年8月30日～1912年12月21日 第二次西園寺内閣



元老 西園寺公望

1914年 元老山県有朋の推挙を受けて元老となる

1922年 元老山県有朋逝去

1924年 元老松方正義逝去

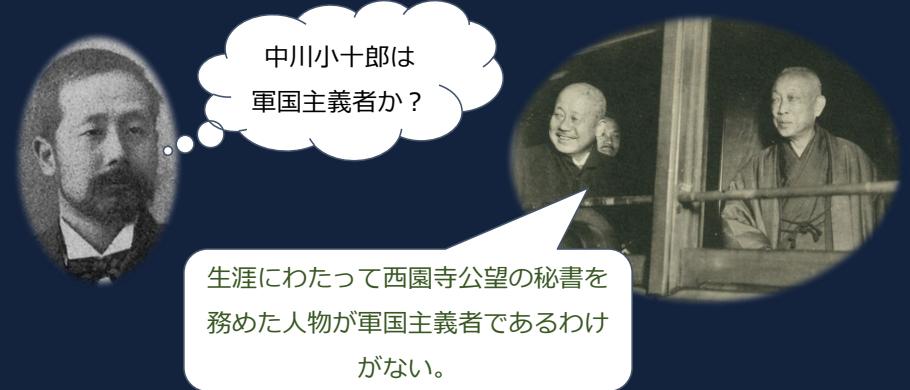
以降、最後の元老として、後継首相を天皇に推挙したり、重要国事に関わり天皇の諮問に答え続けた



元老 西園寺公望が天皇に奏薦した首相 * 赤字は最後の元老として

首相名	役職	備考
原 敬	立憲政友会総裁	東京駅で暗殺
高橋是清	立憲政友会総裁	二・二六事件で暗殺（1936年）
加藤友三郎	元海軍大臣	
山本権兵衛	元海軍大将	
清原奎吾	枢密院議長	
加藤高明	憲政会総裁	
若槻禮次郎	憲政会総裁	
田中義一	立憲政友会総裁	
濱口雄幸	立憲民政党総裁	東京駅で銃撃を受け、後死亡
犬養 毅	立憲政友会総裁	五・一五事件で暗殺（1932年）
齋藤 實	元海軍大臣	挙国一致内閣、二・二六事件で暗殺（1936年）
岡田啓介	海軍大将	挙国一致内閣
広田弘毅	元外務大臣	挙国一致内閣
林銑十郎	陸軍大将	挙国一致内閣
近衛文麿	枢密院議長	挙国一致内閣、日中戦争（1937年～1945年）

伝えたい創立者中川小十郎の人物像



戦前・戦中の立命館は
軍国主義の学校だったのか？



- ・戦後GHQの査察を受けたり、戦後執行部が収監されたりしたこともない
- ・黒歴史には何ら証拠はない

戦時期の私立大学が置かれた状況

- 1937年 日中戦争勃発。国民精神総動員実施が決定。「挙国一致」「尽忠報国」の精神貫徹が求められるという思想統制の強化
- 1938年 国家総動員法成立。物資や労働力の戦時統制の体制構築。学生の勤労動員も開始
- 1939年 大学での軍事教練も必修化
- 1941年 太平洋戦争勃発。学内で軍事組織の形態を持った報国隊の設置が求められ、大学キャンパスは軍事色に彩られていく
- 1942年 大東亜建設審議会答申「・・・大学、高等学校及専門学校ハ官立又ハ公立トスルヲ原則トシ私立ノ大学、高等学校及専門学校ノ新設ハ之ヲ許サザルヲ立前トシ且既存ノ学校ノ経営ハ国家ニ於テ之ヲ管理シ必要アルニ於テハ之ヲ国家ニ移管スルモノトス」
- 1943年 戦時非常措置方策により、文系学部削減、理系学部の新設が増加

「当時最も積極主義的な行動をとった大学は立命館大である」
伊藤彰浩（2021）「戦時期の日本の私立大学－成長と苦難－」、名古屋大学出版会

- 1938年 京都帝国大学内にあった私立電気工学講習所を譲り受け、各種学校として立命館高等工科学校を創設する
- 1939年 満州国からの多額の寄付金を得て、各種学校であるがほぼ専門学校に準拠した日満高等工科学校へと改組する
満州国における鉱工業発展に寄与する人材養成機関としての役割を担わされたこの学校の学生の4割が満州国政府委託生として、授業料や生活費を満州国から補助されるという厚遇を誇った
- 1942年 立命館大学専門部工学科・理学科へとさらに改組されることで、従来の委託生制度を継続しつつ、正式に専門学校令に基づく学校へと移行していった。
- 1944年 私立の理工系専門学校では我が国で最大規模の機関となった。大陸進出という国策を積極的に利用し、そのことを梃子に大学を成長させていった

「立命館禁衛隊創設と学園経営」

木多 悠介 立命館 史資料センター紀要 4 181-204 2021年3月

- 1922年 大学昇格。大学昇格に伴う学園全体の財政負担増（大学施設の充実、広小路にあった立命館中学校の北大路校地購入および移転、グラウンド用地の購入および整備等）
- 1929年 校友会への寄附金募集
- 1930年 「金払いの悪い大学にお灸」記事報道（読売新聞 3月17日夕刊）
大学昇格にあたって文部省に供出する供託金の残金の支払いが滞っている大学に対し、文部省が支払い督促の上でなおも納入しない大学に対して認可を取り消す意向である旨述べたという記事内容

財政再建に向けた立命館の対策

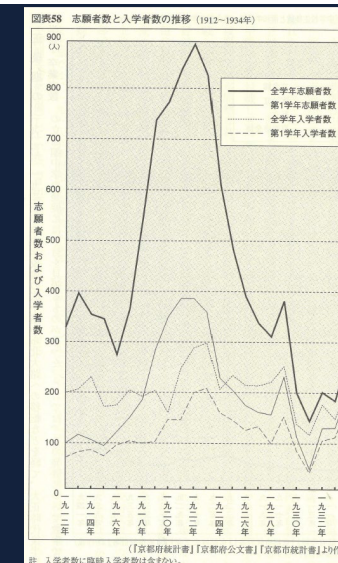
1. 授業料収入増に向けた立命館中学校の定員増

⇒ところが、第一次世界大戦の戦後恐慌と1929年の世界恐慌により志願者数、入学者数ともに減少の一途に（私立中学校同士の生徒獲得競争激化）

2. 禁衛隊の創設

⇒1928年10月23日、昭和天皇の即位儀礼にあわせて京都御所の周囲を警衛する禁衛隊を結成。昭和天皇が京都に滞在される11月7日から26日までの期間、御所周囲警備の任についた。その様子は「東京朝日新聞」「京都日出新聞」に好意的に記事としてとり上げられた

⇒結果、立命館学園の知名度が上がり、1929年は学園全体で志願者数・入学者数が大幅に増加。立命館中学校も志願者数2.5倍、入学者数2.6倍



考 察

- ・禁衛隊が創設された昭和前期の立命館学園は、大学昇格に伴う学園施設の拡充や、昇格に必要な巨額の供託金支払いのため、支出を増大させていた
- ・しかし、立命館学園はこれらの支払いを学園単体で行うことができず、校友に寄附金を再三にわたり募集することでこれらの支払いを行う有様であった
- ・このような不健全な経営状況となった主要因は立命館中学校の入学者数の減少と考えられる。授業料収入を主要収入源としている立命館学園にとって、学生・生徒の減少は、収入源の縮小となる
- ・このため立命館学園は経営状況改善のために、入学者数を増加に転じる手立てを打つ必要があった
- ・そこで中川小十郎がとった手段が、御大典という国家事業の場に禁衛隊を送り込み、広告塔として全国各地に立命館の名を知らしめるというものであった。功を奏し、立命館中学校および商業学校の入学者数は回復した



中川小十郎という人は、
類まれな私学経営者

時代の流れを的確に掴み、
しなやかに、したたかに
学校の成長・発展につな
げることができた人

(参考文献)

- ・立命館百年史編纂委員会（1999）「立命館百年史 通史一」、学校法人立命館
- ・岩井忠熊（2003）「西園寺公望―最後の元老―」、岩波書店
- ・伊藤之雄（2007）「元老 西園寺公望 古希からの挑戦」、文藝春秋（文春新書）
- ・伊藤之雄（2009）「伊藤博文 近代日本を創った男」、講談社（講談社学術文庫）
- ・永井和（2018）「西園寺公望 政党政治の元老」、山川出版社
- ・清水唯一朗（2021）「原敬 『平民宰相』の虚像と実像」、中央公論社（中公新書）
- ・山崎有恒（2022）「中川小十郎 修身立命の人生」、金壽堂出版
- ・伊藤彰浩（2021）「戦時期の日本の私立大学－成長と苦難－」、名古屋大学出版会
- ・木多 悠介 立命館 史資料センター紀要 4 181-204 2021年3月

学生が挑む社会課題解決

—琵琶湖の外来生物に向き合う、学生団体「biwa友」—



立命館大学 経営学部
藤井彩恵

2026.5.23

自己紹介



名前 藤井 彩恵（ふじい さえ）
所属 立命館大学 経営学部 4年生
出身 立命館慶祥中学校・高等学校
（女子硬式テニス部/起業家講座）
ゼミ 善本哲夫ゼミ（社会課題解決/実験経営学）
活動 学生団体「biwa友」代表



Index

- 0 自己紹介
- 1 “biwa友”とは
- 2 アメリカナマズ問題？
- 3 ミッション
- 4 活動内容
- 5 活動を通じて見えた課題
- 6 今後の展望
- 7 学生としての社会課題への向き合い方
- 8 質疑応答

chapter.1

“biwa友”とは

『biwa友』とは

琵琶湖を脅かす**アメリカナマズ問題**の解決を目指し、
2024年度に活動を開始した立命館大学の学生団体

〈設立背景〉

ゼミを通じて、**アメリカナマズ**が
琵琶湖の生態系を脅かしている現状を知る。

当時の代表が滋賀県出身であったこともあり、
琵琶湖を身近で大切な存在として捉えていたため、
この状況に強い**危機感**を抱いた。

「学生として何かできないか」と考え、活動を開始。



chapter.2

アメリカナマズ問題？

アメリカナマズとは = チャネルキャットフィッシュ



- ・ 出身：北アメリカ
- ・ 特徴（特技）：**①大きくなる**
②何でも食べる
③生命力が強い

・ 2005年：特定外来生物
⇒(1971年に日本に**食用**として輸入された)
・ 1回の産卵で1万個以上を産卵
・ 口に入るものであれば食べる
・ 2018年：緊急対策外来種

アメナマ >>> ブラックバス・ブルーギル

アメリカナマズ、実は…

茨城県霞ケ浦では既にアメリカナマズ
が大繁殖し、ブラックバスでさえ駆逐
されている…

アメリカでは
「フィレオフィッシュバーガー」
の材料にもされている…

実は…「白身魚」として世界各地
で食べられている！



琵琶湖での“アメリカナマズ問題”

➡ 現状、琵琶湖にはほとんど流入・定着していない **しかし!!**

いつ流入して繁殖してもおかしくない状態！

淀川水系



琵琶湖の水は
瀬田川 → 天ヶ瀬ダム → 宇治川 → 淀川 → 大阪湾へと流れる
現在、瀬田川や天ヶ瀬ダム周辺でアメリカナマズが多数確認されている

天ヶ瀬ダム



京都府宇治市にあるダム。
ダム湖である鳳凰湖は遊漁禁止であるため、アメリカナマズにとっては安全な繁殖地になっている。多数個体を確認されている。

クイズ①

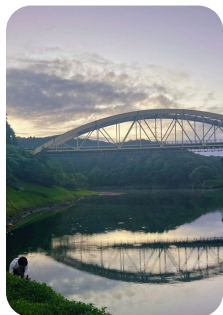
なぜ瀬田川や天ヶ瀬ダムで増えていると思いますか？



- A：水が綺麗
- B：天敵がない
- C：人が釣らない

クイズ①

なぜ瀬田川や天ヶ瀬ダムで増えていると思いますか？



- A：水が綺麗
- B：天敵がない
- C：人が釣らない

➡ 「全部!!」

クイズ②

駆除しているのに、なぜ減らない？

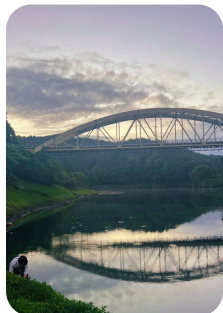


- A：数が多い
- B：繁殖力が強い
- C：供給源がある

クイズ②



駆除しているのに、なぜ減らない？



- A : 数が多い
- B : 繁殖力が強い
- C : 供給源がある

➡ 「全部!!」

琵琶湖に定着してからでは、駆除は極めて困難

しかし…

行政や社会は“問題になってからでないと動きにくい”

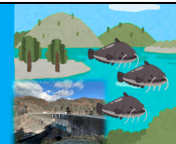
問題になる前に関わる必要がある!!

その“間”を埋める役割が必要

『学生』

今、何が起きているのか

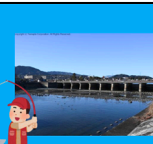
漁がおこなわれず安全な天ヶ瀬ダム湖のダム湖、水深が浅く天敵がない瀬田川でアメリカナマズが繁殖



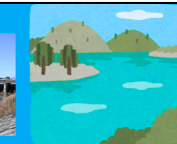
天ヶ瀬ダム湖



瀬田川



瀬田川洗堰



琵琶湖

非常に強い遡上力を持つアメリカナマズは上流の琵琶湖を目指し遡上してくる



遡上してきたナマズを洗堰で止めて、瀬田川流域の漁師が駆除しているため、琵琶湖には流入していない

瀬田川で駆除しても、ダムから供給され続けるため減らない！



- ・ 減らない「たちごっこ」状態
- ・ 駆除だけでは限界

chapter.3

ミッション Mission

MISSION

“琵琶湖やそれに繋がる 河川の生態系や固有種を守る”

アメリカナマズの駆除は目的ではなく、
あくまでそのミッションを達成するための手段

chapter.4

活動内容

活動内容



①天ヶ瀬ダムとの協働

- ・天ヶ瀬ダムのダム湖にて行われる生態調査への同行

琵琶湖におけるアメリカナマズ問題の早期解決を目指すためにはその
繁殖元とされている天ヶ瀬ダムへのアプローチが必要不可欠！

②瀬田川における実地調査

- ・瀬田川下流において、実地調査を複数回行う

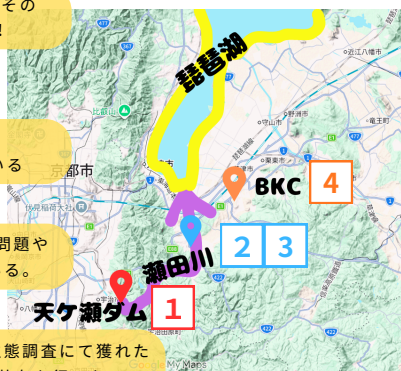
釣ったアメリカナマズは協力していただいている湖魚専門店
「BIWAKO DAUGHTERS」協力のもと、加工し食材活用している

③ウォーターステーション琵琶での展示の実施

滋賀県大津市のウォーターステーション琵琶にてアメリカナマズ問題や
水系のネイチャーポジティブについての展示を定期的に行っている。

④アメリカナマズ問題の認知拡大および利活用

2025年度は10月に行われた立命館大学BKCウェルカムデーにて生態調査にて獲れた
アメリカナマズをフライにして販売しながら、問題についての共有を行った。



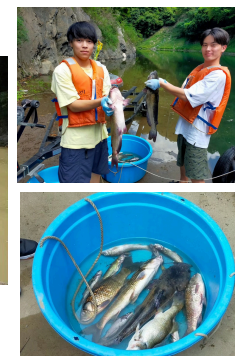
活動内容



①天ヶ瀬ダムとの協働

- ・天ヶ瀬ダムのダム湖にて行われる生態調査への同行

琵琶湖におけるアメリカナマズ問題の早期解決を目指すためにはその
繁殖元とされている天ヶ瀬ダムへのアプローチが必要不可欠！



活動内容

② 瀬田川における実地調査

- 瀬田川下流において、実地調査を複数回行う

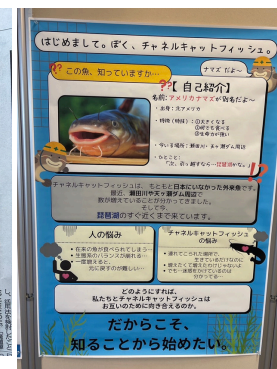
釣ったアメリカナマズは協力していただいている湖魚専門店「BIWAKO DAUGHTERS」協力のもと、加工し食材活用している



活動内容

③ ウォーターステーション琵琶で展示の実施

滋賀県大津市のウォーターステーション琵琶にてアメリカナマズ問題や水系のネイチャーポジティブについての展示を定期的に行っている。



活動内容

④ アメリカナマズ問題の認知拡大および利活用

2025年度は10月に行われた立命館大学BKCウェルカムデーにて生態調査にて獲れたアメリカナマズをフライにして販売しながら、問題についての共有を行った。



chapter.5

活動を通じて
見えた課題

活動を通じて見えた課題 -先輩の声-



【経営学部・滋賀出身】

元代表：日野原 颯さん

色々な期間と連携して活動はできたけど、根本的な解決にはまだ届いていないと感じています。

今の活動は、どこか“パフォーマンス”にとどまっている部分が多く、本当の意味での解決には継続的に活動を行うことが必要だと思っています。



【経営学部・大阪出身】

元副代表：森口 直人さん

やりたいことはあったけど、色んな制約でできないことも多かったです。
振り返ると、もっと自分たちから動けたんじゃないかって思います。

実際に、自分たちから動いたときは、周りも協力してくれたので、それをもっと早くできていればよかったなと感じています。

活動を通じて見えた課題 -活動-



課題① 活動量の限界

- ・ 駆除活動の機会が限られていた
- ・ 交通・費用などの制約

自分たちだけでは限界がある

課題② 実現できなかった取り組み

- ・ 釣り大会の実施が困難
⇒ (調整の難しさ)
- ・ 大学での販売活動が実現できず

社会的な制約の存在

もっと早く、自分たちから動くべきだった。

活動を通じて見えた課題 -団体-



課題① 参加のハードル

- ・ 活動内容や全体像が見えにくい
- ・ 何につながるのか分かりづらい

自分たちだけでは限界がある

課題② 立場によるギャップ

- ・ 参加側：楽しさ・気軽さ重視
- ・ 運営側：責任・全体設計
意思決定

熱量・視点に差がありすぎる

『一部の人だけでは解決できない』



継続・継承の難しさ

chapter.6

今後の展望

今後の展望



「地域全体で問題に向き合う状態へ」

問題の“構造”に対してアプローチ

➡ 繁殖源・認知・担い手 すべてに働きかける！

具体的な取り組み

① 天ヶ瀬ダムへのアプローチ強化

② 瀬田川での調査・活動の継続

③ 認知拡大
(イベント・発信)

④ 地元企業・行政との連携拡大

今後の展望



具体的な取り組み → 『実現させる!!』

① 天ヶ瀬ダムへのアプローチ強化

・ナマズハンター選手権
・ダム裏側潜入ツアー

③ 認知拡大
(イベント・発信)

・学園祭などでの販売+展示
・小中学生向けワークショップ

② 瀬田川での調査・活動の継続

・釣り大会
・ナマズパトロール隊

④ 地元企業・行政との連携拡大

・飲食店とコラボしたナマズメニュー開発
・企業と共同イベント (環境×地域)
・行政と連携した地域プロジェクト化

chapter.7

「学生として」 社会課題への向き合い方

これからの関わり方

社会課題は「遠い存在」
自分にできることは少ない



社会課題は「身近なもの」
小さくても、
関わることに意味がある

“きっかけをつくる”



ご清聴ありがとうございました。

chapter.8

質疑応答 Q&A

ご自由にご質問をお願いいたします！

協賛広告

(敬称略)

企業団体広告
北海道産業社会学部校友会
C T M研究所（城戸寛技術士事務所）
Luceline Group（ルーチェライン グループ）
（株）違カ 畑野商店 オタスケスーパーマン

名刺広告	
千廣 隆章	城戸 寛
中川 均	竹中由里子
佐藤 恭美	寿楽 和也
吉本 泰一	

立命館大学

北海道産業社会学部校友会

「産社のメンバーで何かやろうよ!」



7年前、札幌と帯広の産業社会学部のメンバーで設立しました。
設立のきっかけは「産社のメンバーで何かやろうよ!」という実に気楽な思いからでした。

【活動内容】は何をやっているの?



親睦と情報交換

年に数回集まって、先輩・後輩関係なく、近況を含めて情報交換をしています。



学生支援

毎年、来札する産社の在校生と食事会をしています。



これからの活動

あとはこれから集まるみんなで、何をするか考えましょう!

メンバー登録 大募集中

LINEアカウント

LINEから、自由にお入りください。



【事務局・お問い合わせ】

会長：中川 均（キャリアバンク株式会社）

広大な北海道における「持続可能なまちづくり」の
主要インフラとしての交通施策、基底となる防災・減災、
そして、これらを支える建設産業を
総合的な技術監理の視点からサポートします。

CTM 研究所 (城戸寛技術士事務所)

Comprehensive Technical Management research institute

<https://ctm-research.com>

mail : kido.hiroshi_p.e.jp@icloud.com

代表 城戸 寛

技術士（総合技術監理部門 / 建設部門）

APEC Engineer (Civil)

土木学会フェロー会員 1級土木施工管理技士

〒001-0902 札幌市北区新琴似2条12丁目16-2

Tel : 080-1891-5907 Fax : 011-763-1844



Pe-CPD



北海道本部防災委員会 顧問

防災・減災支援ワーキンググループ 代表

北海道防災・減災支援連絡会 代表幹事

事前防災支援ワーキンググループ 代表

北海道被災地危険度判定士 防災教育アドバイザー



ホテルのご紹介 (2026年9月オープン予定)

東西線「東札幌駅」徒歩3分

- 駐車場 6台
- 6室 (24平米から44平米までのラインナップ、キッチン/洗濯機付のコンドミニウムタイプ 長期滞在も可能)
- お気軽にお問い合わせください😊



1998産産業社会学部卒 竹中由里子

LuceLine Group (ルーチェライングループ)



yoisumai55@gmail.com



北海道函館市のプロフェッショナル便利屋
株式会社畑野商店

「こんなこと、頼めるかしら？」
是非、プロにご相談を。

主な仕事・サービス内容

🚚 引越・移動・運搬 ・重いものの移動 ・引越/荷物の預かり ・店前商品配送	🗑 不用品・家財処分 ・遺品整理・生前整理 ・不用品処理 ・ゴミ出し代行
✂ 保守・メンテナンス ・建具・戸の調整 ・空き家点検保守 ・灯油タンク撤去	🍃 暮らしのお手伝い ・草刈り・除雪 ・買い物代行 ・電球一つの交換

お見積り無料！お気軽にご相談ください

☎ 0138-59-1616

📍 店舗情報

〒042-0932
北海道函館市湯川町3丁目3番26号



1998年産産業社会学部卒 竹中由里子

db 北海土木工業株式会社



ISO9001
認証登録

代表取締役

千 廣 隆 章

〒002-8025

札幌市北区篠路5条1丁目1番10号

TEL 011-788-3051

FAX 011-788-3061

E-Mail chihiro@hokkaidoboku.co.jp



2024年、北海道校友会は設立70周年を迎えました

立命館大学北海道校友会

会 長 城 戸 寛 (昭和55年
理工学部卒)

技術士(総合技術監理/建設)、土木学会フェロー会員
APEC Engineer(Civil)、1級土木施工管理技士

CTM 研究所(城戸寛 技術士事務所)

Comprehensive Technical Management research institute

<https://ctm-research.com>

〒001-0902 札幌市北区新琴似2条12丁目16番2号

Tel. 080-1891-5907 Fax. 011-763-1844

E-mail hiroshi.kido@js3.so-net.ne.jp



CAREER BANK キャリアバンク

中川 均

1980 年産社卒

URL : <https://www.career-bank.co.jp>

立命館大学北海道校友会

副会長

Alumni
HOKKAIDO

竹中 由里子

Yuriko TAKENAKA



ALUMNI WEBSITE

1998年産業社会学部卒



RITSUMEIKAN

立命館大学 北海道校友会

幹事長 佐藤 恭美

Yasumi Sato

(昭和59年 産業社会学部卒業)



北海道校友会
ホームページ

〒004-0882 札幌市清田区平岡公園東4丁目12番6号

TEL 090-1644-7016

E-mail : yasumi-zeiram1@docomo.ne.jp



事業推進本部
常務執行役員

寿 楽 和 也

Juraku Kazuya

技術士 [建設部門]

総合建設コンサルタント
株式会社ドーコン

〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4番1号

TEL 011-801-1511 FAX 011-801-1512

E-Mail: kj1163@docon.jp <https://www.docon.jp>

QMS
JISO9001
NJO-348



税理士

吉本 泰一

Taichi Yoshimoto

みその税理士事務所

〒062-0007 札幌市豊平区美園7条3丁目3-6

Mail misono73@sky-tax.jp

電話 070-3787-7673 携帯 090-1649-1951



misono-tax.com

北海道校友会主催講演会開催一覧

開催日	会場	講演概要
2024/6/29	ANAクラウン プラザホテル札幌	設立70周年記念式典 記念講演会 「未来ある子どもたちの夢、 そして挑戦を支える教育を目指て。」 学校法人田中学園 田中賢介理事長
2025/5/24	アスティ45 ACU 1605会議室	第1回定例講演会 「未来を生み出す、立命のきずな。 - 『校友会活動ビジョン』より -」 報告「立命館大学校友会北海道・東北 ブロック若田・中堅の交流活動につて」 北海道校友会役員会 吉本泰一幹事 講演I「自然災害から社会インフラを守る技術 ～BKCから北海道へのメッセージ～」 環境都市工学科 伊津野和行特任教授 講演II「高校生の未来を拓くキャリア教育 ～CeNetworkの実践から見えること～」 経営学部4回生 堂本佳乃子さん 経営学部4回生 井上 美悠さん

【お問合せ】

立命館大学北海道校友会役員会

E-mail : al-01@gst.ritsumei.ac.jp

<https://alumni.ritsumei.jp/hokkaido/>



公式LINE
登録は
こちら

